

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 476 号	氏名	小池 雄太
学位審査委員		主 査	川上 純
		副 査	前村 浩二
		副 査	中島 正洋
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究の目的は、全身性強皮症(Systemic sclerosis: SSc)における抗 survivin 抗体、血清 survivin と臨床症状の相関を検討するもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>SSc 61名 [Diffuse cutaneous SSc (dSSc) 37名、Limited cutaneous SSc (lSSc) 24名]、疾患コントロールとして全身性エリテマトーデス (Systemic lupus erythematosus; SLE) 20名、健常人 29名の血清を用い、抗 survivin 抗体は ELISA 法と免疫ブロット法で評価している。血清 survivin 量は ELISA 法で測定し、これらを各群及び SSc の臨床症状と比較検討しており、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>SSc 患者の IgG 型抗 survivin 抗体価は、健常人、SLE 患者と比べ有意に上昇し、健常人の平均値 +2SD をカットオフ値とすると、IgG 型抗 survivin 抗体は SSc 患者の 41% で陽性であった。また、IgG 型抗 survivin 抗体陽性患者では同抗体陰性の患者と比較して有意に罹病期間が長かった。免疫ブロット法でも、ELISA 法で IgG 型抗 survivin 抗体陽性の SSc 患者血清は、recombinant human survivin と反応しバンドを認めた。SSc 患者における血清 survivin 量は、健常人、SLE 患者と比べ有意に上昇していた。これらの結果は SSc 患者における survivin に対する自己免疫応答の亢進を示し、今後の SSc の病態解析に対する研究の発展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は SSc の病態解析に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			